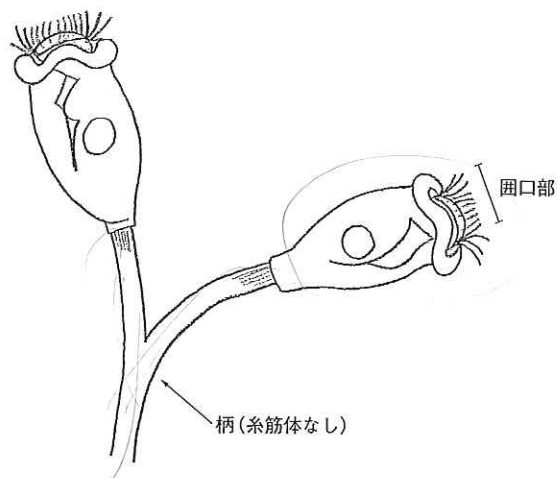
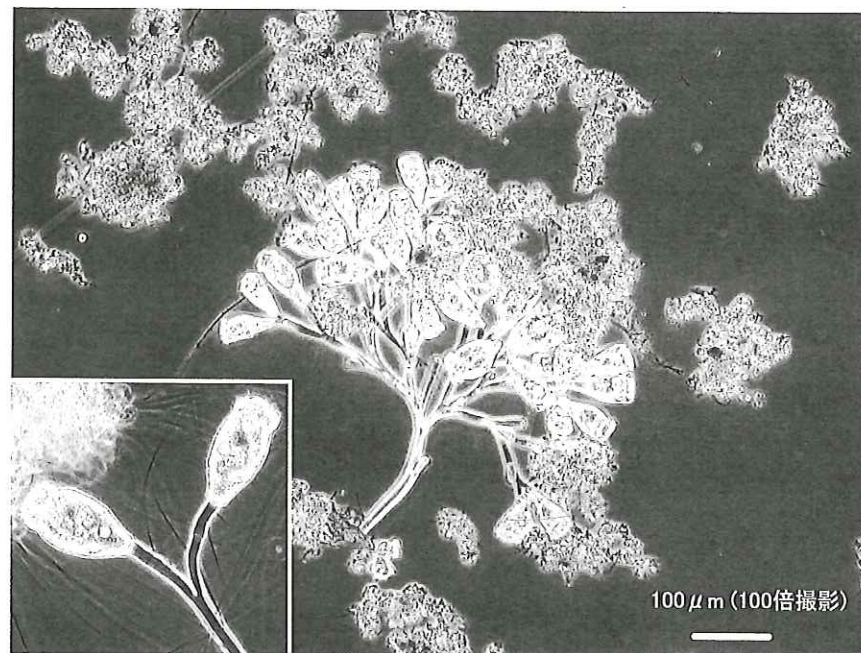


(19) エピスティルス (*Epistylis*)

体長の大きさ：50～100 μ m

エピスティルスは半円状の群体をつくり、柄の中に糸筋体をもたない。非常に大きく平坦な囀口部をもち、細胞口の突出部分もなく柄も太いところが、オペルクラリア(18)とは異なる。柄は非常に長くなることも多く、とくに生物膜法の場合に遊走子がはずれた長い柄が多く観察される。長く伸びた柄のみを観察すると、カビや糸状性細菌と間違えやすい。

エピスティルスは良好期を少し過ぎて解体に向かう頃から出現し始め、解体している状態まで出現する。虫体が大きいため、固着には大きなフロックが必要である。生物膜法の担体表面や処理水の水路などにも固着し、個体数の多い群体を形成することがある。